

ラボ4年間の受精卵生産推移

こんにちは、受精卵課の筒井です。

受精卵部門の本格的な始動から4年が経ち、あっという間のようなもって年数が経っているような不思議な感覚になります。

今回は、この4年間で我々が生産している受精卵の個数や種類がどのような背景で変動しているかをまとめてみましたので、読んでいただくと幸いです。

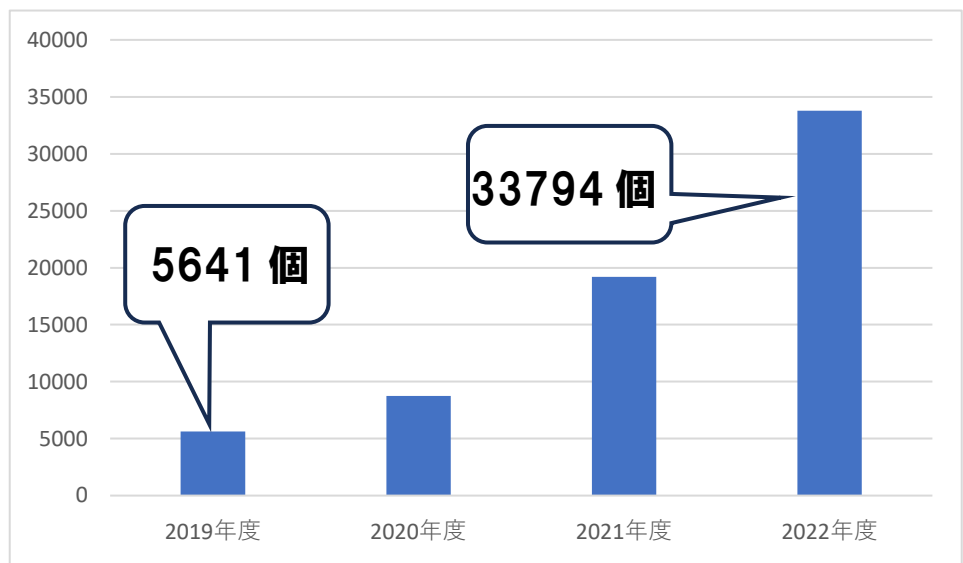
まず、全体的な生産個数の推移についてまとめたものが右下のグラフになります。

初年度 2019 年度が 5641 個だったに対し、昨年度 2022 年度は 33794 個と約 6 倍にまで生産個数を増やしています。(数字に多少の数の誤差はあります)

生産個数の変化の背景といたしまして、受精卵部門の業務内容を踏まえながらからご説明したいと思います。

現時点での受精卵部門の事業内容としましては、主に以下の3つになります。

1. OPU・IVF (自社培養)
2. OPU・IVF (委託培養)
3. 食肉処理場由来 IVF 卵培養



生産個数推移

簡単にご説明いたしますと、以下の通りになります。

1. OPU・IVP (自社培養) は、**弊社獣医師**が生体牛からエコーを使用して卵子を吸引し、その後培養士が培養作業を行う業務。
2. OPU・IVP (委託培養) は、**弊社以外の獣医師**がその地域の農場さんの牛を、同じようにエコーを使用して卵子吸引し、その後の培養作業を弊社が請け負う業務。
3. 食肉処理場由来 IVF 卵培養は、食肉処理場より屠体から卵巢のみを採取し卵子吸引、培養作業を行う業務。

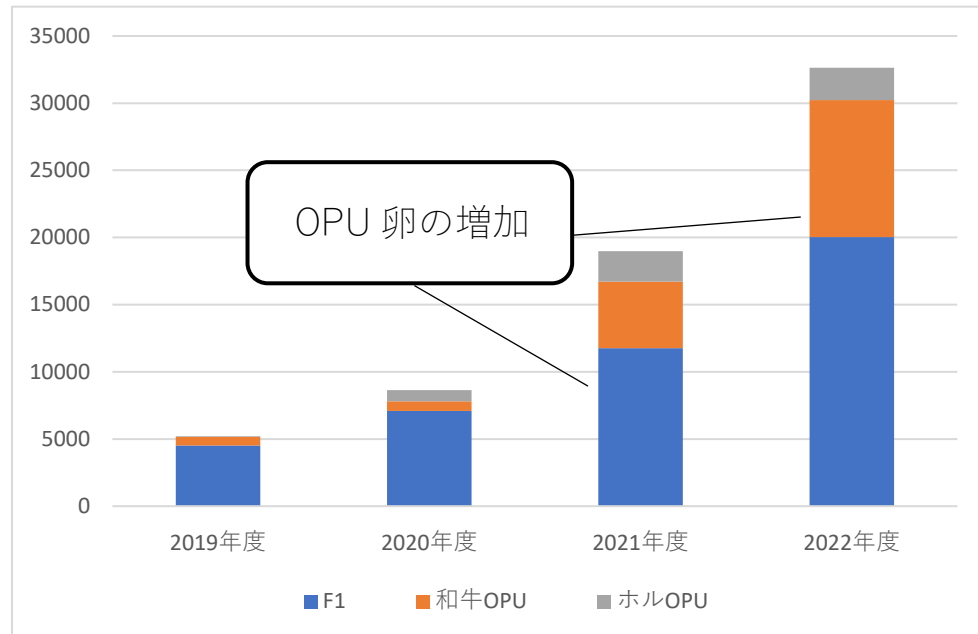
2019 年度当初は、OPU 事業は本格的には行っておらず、委託培養も取引は1社ほどしかいなかったため、屠畜場から卵巢をもらってきて、そこから卵子を採集して受精卵を作成する F1 卵生産がメインでした。また、F1 卵を作成しても受胎成績の実績がなかったため、受精卵の販売先がつかずどんどん液体窒素タンクに在庫が増えていったのを覚えています。

そんな中、弊社の授精師が生産した F1 卵を使用してくれるようになり、受胎成績の裏付けできるようになったことで販売口が増えていき、それに比例して受精卵生産が増えていきました。

次に先ほどの総計のグラフを、F1 卵生産・自社 OPU・委託 OPU で分けてみたのが右のグラフになります。

青い部分が F1 卵、オレンジが和牛 OPU 卵、グレーがホル卵となっています。

2019 年度は青い部分 (F1 卵) が大部分を占めているのに対し、徐々にオレンジ (和牛 OPU 卵) とグレー (ホル OPU 卵) の部分の割合も増えていっています。



生産個数内訳

OPU 卵に関しましては、2020 年度後半からは弊社顧客様に他の農家さんの牛を預託していただき OPU する預託型の OPU が始まりました。そのため、2020 年度は 2019 年度に比べて OPU 卵 (自社培養) の割合が微増しています。

2021 年度は、新規委託培養先が増えたのがきっかけで、和牛 OPU 卵の生産が前年度に比べてかなり増加しています。そして、2022 年度 12 月に弊社の OPU 牛舎が完成し、そこで預託型 OPU 事業がスタートいたしました。この間に、委託培養先も計 4 件に増えました。

F1 卵に関しましては、2020 年度後半から家畜改良事業団様の北海道分の F1 卵を受託生産する形になり、徐々に F1 卵の生産個数が伸び始めました。

さらに、2021 年度以降は家畜改良事業団様の全国分の F1 卵生産を請け負うことになったため、F1 卵生産が前年の倍の生産個数になりました。2021 年度以降は人員も一人増えてたということもあり、さらに生産個数を伸ばしました。

以上簡単なラボの生産実績の変化でした。今年度の生産に関しましては、現時点 (7/6) で F1 卵が 3,864 個、OPU 卵が 4,447 個です。昨年度と同程度の生産かなと予想しています。また、人員不足の関係で、OPU の受け入れや委託培養をお断りさせていただいてる状況です。しかし、今年度は新人の池田 実園も加わりましたので、よりパワーアップして皆様にいち早く高品質な受精卵を使っただけできるよう今年度も精進していきます。最後まで読んでいただきありがとうございます。